

この小冊子を出すにあたって

新生計画実施要領作成委員会

諏訪 栄治郎

あの大震災から500日が経ちました。未曾有の恐怖の中でもがき苦しみ傷ついた私たちの社会は今も不安を抱え傷んでいます。

しかしそのすさまじい状況の中で私たちは人と人との交わりの素晴らしさを幾たびも経験いたしました。

これらの出来事は私たち教会の福音的なあり方を根本的に真剣に問い直してくれる機会ともなりました。その状況の中で「新生計画」が出され「教会のための基本方針」をもって混乱の直中にあった私たちの方向性をいち早く的確に示すものとなりました。

それを一言で現すと「交わり証しする教会」への歩みだと言えるでしょう。見えない神の心、その悲しみを社会のただ中であかす使命に私たちは招かれています。

この「招き」をどの様に受け止め、どのように具体的に組み深めていくかの手だてとして、このたび「新生の明日を求めて(第1・2部)」パート1が発行されました。

「交わり証しする教会」となるためには、「意識の変革」「組織の見直し」「養成の充実化」がどうしても問われてきます。「新生計画」とはまさにこの運動だといえるでしょう。

イエスの福音に答えようとした教会二千年の歩みはいつの時代も「改革の歴史」だったと言えるでしょう。

どうぞ家庭で、共同体でこの冊子を使って分かち合い、兄弟姉妹の福音への叫びに私たちが敏感となる霊性が深まるようにと願います。

文末になりましたが震災時から今日に至るまで日本の教会のみならず、多くの方々の物心両面にわたるご助力と励ましゆえに、この「新生」の道に招き導かれたことを心より感謝申し上げます。